

競輪とオートレースの再興に向けたアプローチ

—関東地方のレース場に着目して—

横浜国立大学大学院環境情報学府 福井 弘教

要旨

公営競技のなかで売上下位にある競輪とオートレースに着目し、施行者、高齢者への質問紙調査やエスノグラフィを通じて、現状と課題を整理した。既存の公営競技研究では文献サーベイが中心であるが、本稿では調査を中心に展開した。考察の結果、以下の3点が再興に向けた課題として明らかとなった。第一に、施行者は来場者の中心は高齢男性であると把握しているものの、高齢者への配慮については必ずしも考慮されていない。第二に、「参加条件」に見合った、施設更新やイベント・サービスがレース場によってはなされていない。また、その

ようなレース場は廃止される可能性が高まる。施設更新、イベント・サービスは費用を要するが事業継続には有効な施策であるといえ、そうした投資は必要である。第三に、全国的に早朝から深夜まで多様な時間帯のレースが実施されている。ファンの行動様式の多様化に対応した施策といえるが、あくまでも施行者の売上（収益）を重視した施策であり、公営競技の起点・基本である「来場型」レースの確保が求められる。

キーワード： ナイターレース、無観客、場外発売、高齢者、娯楽

Approach for Revival of KEIRIN and AUTORACE

—Focusing on the race track in Kanto region—

Yokohama National University, Graduate School of Environment and Information Sciences
Hironori Fukui

Abstract

In this paper, focused on "bicycle racing and motor-bike racing," which is the lowest-selling sports gambling by local governments, and summarized the current situation and issues through questionnaire surveys and ethnography for the enforcers and the older adults. The existing sports gambling by local governments research focuses on literature surveys, but this paper focuses on research. As a result of the consideration, the following three points became clear as issues for revival. 1) Although the enforcer understands that the majority of visitors are elderly men, consideration for the older adults is not always taken into consideration. 2) Facility renewal and event services that meet

the "participation conditions" are not provided at some race venues. Also, such racecourses are more likely to be abolished. Facility renewal and event services are costly, but can be said to be effective measures for business continuity, and such investment is necessary. 3) Races are held nationwide from early morning to late night at various times. It can be said that this is a measure that responds to the diversification of fan behavior patterns, but it is a measure that emphasizes the sales (revenue) of the enforcer, and it is necessary to secure "visit-type" races, which are the basis of sports gambling by local governments.

Keyword: Night race, No audience, Off-track betting, Older adults, Entertainment

1. はじめに

2020年、国内外に多大な影響を与えることとなったCOVID-19（以下、コロナと記述）が流行し、公営競技においても2月の下旬から無観客開催となった。その後、一時有観客となったものの、第2波以降の影響で再び無観客になったり、有観客の場合であっても大幅な入場制限を実施するなど本来の姿には程遠い。しかし、公財JKA(2020)、中国新聞HP:2020/6/19「無観客でも売り上げ快走 コロナ禍の公営ギャンブル」などによれば、公営競技の売上に目を向けると、コロナの影響を感じさせないほど、好調な競馬、競艇（ボートレース）をはじめ、競輪、オートレースにおいてもビッグレースでは前年売上を上回る開催が散見されている。パチンコなど必ず現地（店舗）に出向かなければ成立しないギャンブルと比較すると影響は少なかったといえるだろう¹。この現象の示唆は、パチンコからの流入をはじめとして、レース場が無観客であっても売上の維持が可能ということである。コロナの影響で職場や学校などでも、「オンライン」、「リモート」が一般的となったが、公営競技については以前から、「オンライン」、「リモート」が主流となっていた。すなわち、レース場に足を運ぶことなく携帯電話（固定電話含む）やPCなどから投票可能なシステムが確立していたのである。公営競技の各レース場に足を向けると高齢者の姿が目立つが、こうした来場者の動向が必ずしも売上には影響しない側面があるともいえるだろう。種別に見ていくと、競馬、競艇と比較すると競輪、オートレースは売上が低い状況が長く続いており近年、明るい兆しが見えつつあるとはいえ、更なる売

上の伸長が見込めるかといえば疑問といわざるを得ない（図1-1、表1-1）²。

本稿においては、一時の売上不振から脱却した公営競技のなかで売上下位の競輪とオートレースに着目し、施行者、高齢者への質問紙調査やエスノグラフィーを通じて現状と課題を整理したい。なお、施行者は主催者、オートレースはオートとして適宜、表示する（いずれも同義）。

表 1-1：近年の公営競技売上推移（中央競馬は除く）
※競技名ヨコの数値は本場数

区分	開催年	総売上額
競艇 (24) 監督官庁 国土交通省	2018	1兆 3,399 億円
	2019	1兆 5,342 億円
	2020	2兆 951 億円
地方競馬 (15) 監督官庁 農林水産省	2018	5,864 億円
	2019	7,009 億円
	2020	9,122 億円
競輪 (43) 監督官庁 経済産業省	2018	6,495 億円
	2019	6,604 億円
	2020	7,499 億円
オートレース (5) 監督官庁 経済産業省	2018	690 億円
	2019	738 億円
	2020	946 億円

出典：各競技HPを参照して筆者作成 通常は年度計算による数値である。千万円単位以下は切捨て表示とする。地方競馬は実態に即した（本場数）とした。

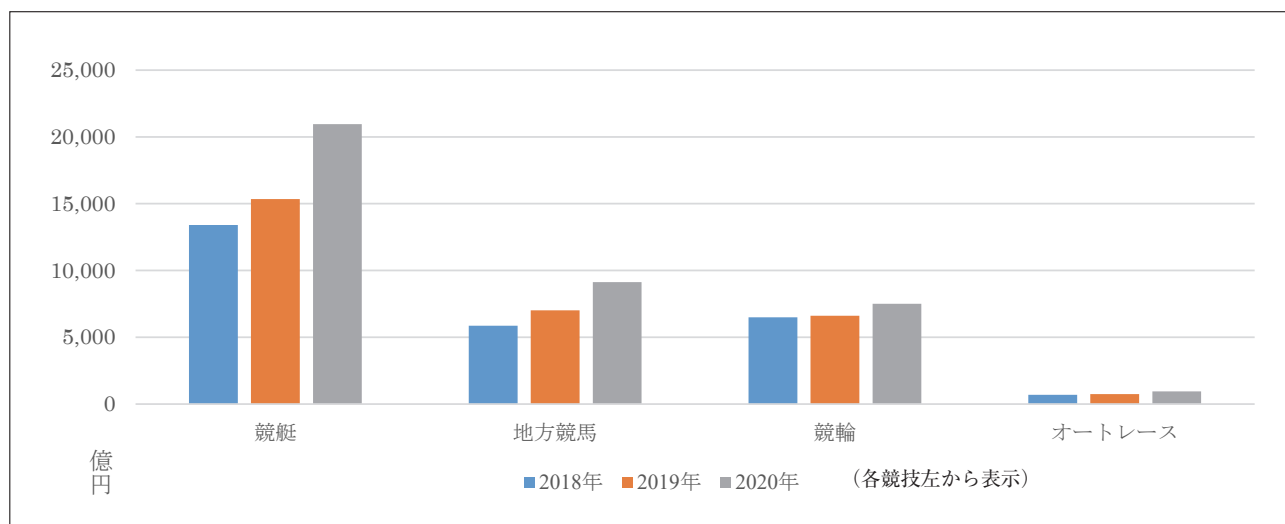


図 1-1：近年の公営競技売上推移（中央競馬は除く）

出典：各競技HPを参照して筆者作成

単純比較はできないが、1場あたりの売上（総売上額/場数）は競艇が872億円、地方競馬が608億円、競輪が174億円、オートが189億円となり、オート以上に競輪の売上が低調であるともいえる。他方、競艇は大幅に売上回復に成功している。

2. 目的

公営競技に関する研究蓄積は総じて多くないが、政策、法律、地理、建築、会計、歴史などその分野は多岐に及んでいる。なかでも、最も多い分野が「政策」であった。政策の実施にあたっては、マクロ視点で考えると、政策を実行する施行者視点と政策に含まれる参加者視点が重要となる。参考文献で提示した研究を整理すると、「政策」に関する分野で「施行者」視点の報告が多く、研究手法としては、「文献サーベイ」が主流となっていた（表 2-1）。

現在、競輪場は43場、オートレース場は5場であるが、競輪はこれまでに20場、オートレースは6場がこれまでに廃止されている。廃止理由（政策決定）は場や時期により差異はあるが、近年の廃止はすべて、「売上減少」が関係しているといつてよい。「売上減少」の分析については、「施行者」視点でなされるのが主流である³。しかし重要であるのは、売上形成に貢献する参加者であるが、この「参加者」視点が欠落している。

したがって、本稿では、「政策」、「参加者視点」に着目して既存研究で不足している量的研究をふまえた研究とする。「施行者」視点（施策）と「参加者」視点（目的と行動）を整理して現状分析を行い、「再興」に向けた課題を指摘したい。公営競技の草創期から1970年頃までは、中央競馬以上に売上が高く推移していたのが競輪であり、「公営競技トップの売上が誇っていた」（福井2016：3）。公営競技は財政貢献以外に、他の貢献や存在意義も考えられる。本稿では参加者については高齢者を主体に検討するが、持続可能性の側面から他の年齢層も考慮する。なお、中央競馬も公営競技に含まれると筆者は考えるが、国が全額出資した特殊法人のJRA（日本中央競馬会）が施行者であり、本稿においては除外している。

表 2-1：先行研究サーベイの結果（数値は文献数）

研究分野	研究対象	主な研究手法
政策 (5)	(4) 施行者視点 (1) 施行者・参加者視点の双方	(3) 文献サーベイ (2) 文献サーベイ, 観察
法律 (3)	(3) 施行者視点	(3) 文献サーベイ
地理 (2)	(2) 施行者・参加者視点の双方	(2) 文献サーベイ, 観察
建築 (1)	(1) 施行者視点	(1) 文献サーベイ, 観察
会計 (1)	(1) 施行者視点	(1) 文献サーベイ
歴史 (1)	(1) 施行者視点	(1) 文献サーベイ, 観察

出典：筆者作成

3. 方法

調査①：公営競技政策に関するアンケート

（対象：単独開催の施行者）

公営競技の施行者である69の自治体に対して、「施行者」側として参加者に対する施策展開、姿勢などを確認するため郵送式によるアンケート調査を実施した（文末に質問紙提示）。

調査期間：2018年10月～2018年11月

※本調査の倫理的配慮については、横浜国立大学倫理審査委員会の承認済みである。

調査②：レジャー志向性・ギャンブル志向性に関するアンケート

（対象：首都圏在住の65歳以上の高齢者）

調査会社を介して、公営競技の来場者の主流と考えられる65歳以上の高齢者（男女）に対して（潜在的参加者）、属性、ギャンブル経験、志向など趨勢を確認するため無記名式のアンケート調査を実施した。WEBによる調査で、回答者が期限内に任意の時間、場所で回答する（文末に質問紙提示）。

調査方法：インターネット調査

調査設計：エリア 首都圏（一都三県）標本抽出

対象者：65歳以上の男女

調査期間：2019年12月13日～2019年12月16日

※本調査の倫理的配慮については、横浜国立大学倫理審査委員会の承認済みである。

調査③：各レース場の基礎的事項をふまえて、各レース場が発信する情報や関連文献には表れない情報を入手することを目的としてエスノグラフィー（直接観察、参与観察）を実施した。記録は当日に観察場所においてメモによる方法とした。

対象：関東地方に立地する競輪3場〔千葉・松戸・川崎〕、オートレース3場〔船橋・川口・伊勢崎〕の計6か所である。なお船橋は2016年3月で廃止となっている）

調査期間：2013年5月～2021年4月

※本調査は倫理的に十分な配慮を行って実施した。対象外の場についても研究上、有益と考えられる情報は適宜提示する。

4. 結果

4.1. 調査①

調査①の概要と詳細については以下の通りである。公

営競技は一部事務組合（以下、一組）⁴で実施している場合も多いが、本調査においては回答への意見集約、アクセスをふまえて単独で実施している自治体を対象とした。

依頼数 69
 有効回答数 38（競艇、競輪の双方を主催する自治体1あり）
 回収率 55.1%（有効回答数 / 依頼数）

(1) 公営競技を維持する上で最も重要な要素は何か

公営競技を維持する上で重要な要素としては、「売上」が最も多く（84.2%）、「来場者」と「施設」がそれぞれ2.6%で、「その他」が10.5%であった。〔総数= 38〕。

「その他」は4件あったが、うち3件は「収益」と回答しており（1件は公益増進）、売上が重視されていることがわかる。収益は売上から経費を差し引いた数字であるが、固定費の削減には限界があり売上が多いほど収益も多くなることは明らかである。また来場者や施設という回答も売上が伸長させるツールの1つである。したがって、公営競技の維持に関してはほぼ100%売上が重視されると考えられる。

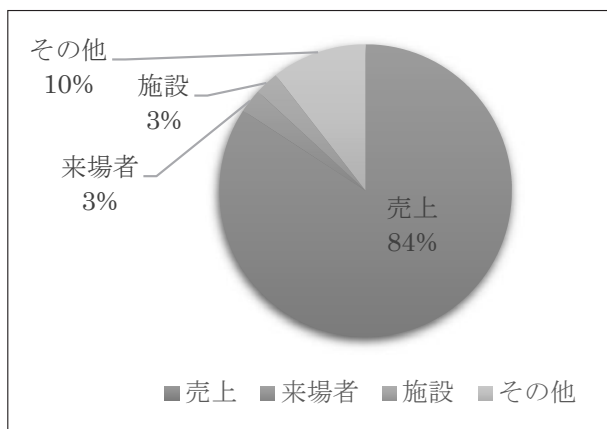


図 4-1：公営競技の維持に重要な要素

(2) 市民に対する公営競技の広報活動を行う場合、どの方法が適切であるか（複数回答）

公営競技の広報活動としては、「HP（インターネット）」が最も多く27件、「TV・ラジオ」が26件、「自治体の広報誌」が21件、「その他」が10件の順であった〔総数= 84〕。

インターネットの登場により、広報活動のツールも拡大したといえるが、未だ「自治体の広報誌」も選択肢とされており、「紙媒体」による広報は高齢者を意識した戦略であると考えられる。

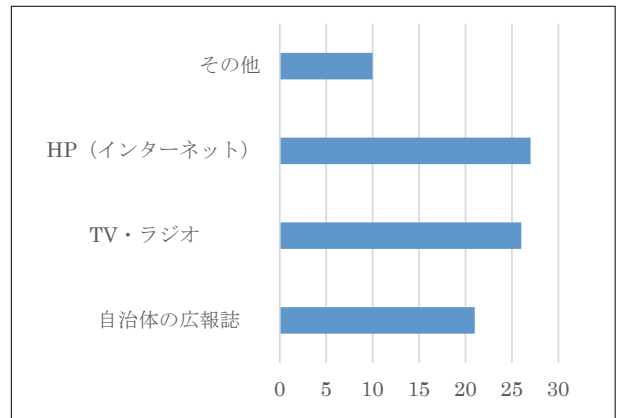


図 4-2：公営競技の広報活動

(3) 公営競技の売上を左右するものは何であるか（複数回答）

公営競技の売上に影響する要因としては、「競走のグレード」が最も多く33件、「施設の充実」が21件、「その他」が18件、「立地」が13件の順であった〔総数= 85〕。

公営競技は、各競技ともに数段階のグレードがあり、グレードが高いレースほど売上が高くなる（比例して選手賞金も高い）。立地は基本的には変えようがないが、施設については改善の余地があり、売上が高いレース場は頻繁に施設改善を行っている。「その他」のなかでは、「他の公営競技開催状況」を挙げる施行者が最も多かった。換言すると、公営競技参加者は、複数の公営競技に参加しているといえる。インターネット投票など必ずしも現地での投票に限定されないとはいえ、他競技の開催状況は重視される。

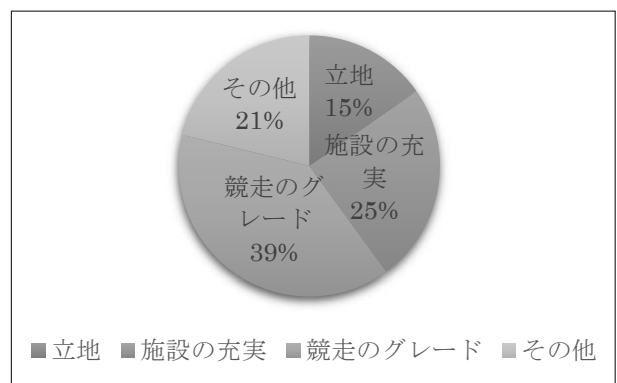


図 4-3：公営競技の売上に影響する要因

(4) 公営競技は、「財政政策」の一環か

公営競技は「財政政策」の一環であると回答した施行者が多かった（92.1%）〔総数= 38〕。

「いいえ」と回答した中でも「地域経済振興」という意見もあり（ほか、雇用）、マクロ視点では「財政政策」

の一環であるという認識であった。公営競技は一般会計への繰出しを基本とする財政政策であるといえる。それに加えて、地域経済振興、雇用創出という側面もある。

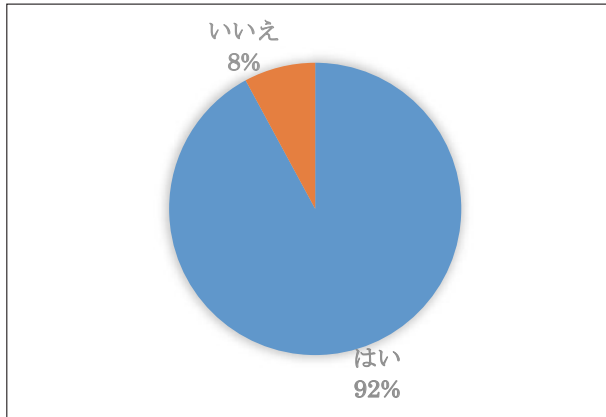


図 4-4：公営競技は財政政策の一環か

(5) カジノが設置される場合も、公営が適切であるか

IR 推進、整備法の制定を経て、カジノについては「民営」であることが決定しているが、公営競技施行者の当事者意識を確認するために本問を設定した。

カジノについても公営競技同様に「公営」が適切という回答が多かった (78.9%) [総数 = 38]。これまで紆余曲折があった公営競技の運営であるが、やはり自治体にとっては貴重な収益事業であるといえ、「胴元」としてのメリットの重要性が示されている。

後述するが、現在は胴元として利益を確保しつつ、民間委託方式での運営が主流となっており、自治体は赤字リスクの回避が可能となっている。決定しているフローでは、カジノは税収や交流人口の増加に寄与する役割を担うことになるだろう。

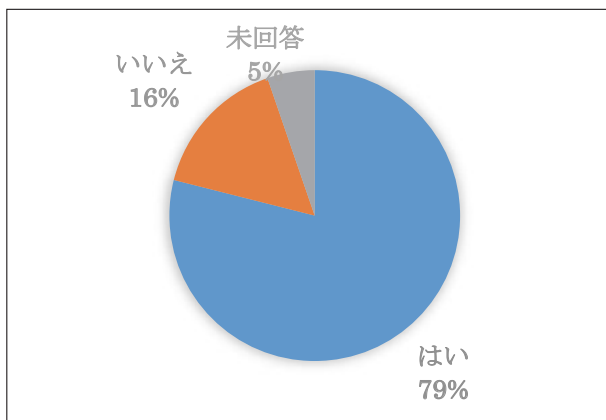


図 4-5：カジノも公営による運営が適切か

(6) 公営競技の入場者はこういった属性が多いか

入場者属性については、「高齢男性」が多かった

(89.5%) [総数 = 38]。筆者のフィールドワークにおいても高齢男性が主流であり、本調査とも一致した。他方、「老若男女幅広い」という回答も 4 件あった。老若男女が集うレース場であるが、全国的にはこうしたレース場が少なからず存在することが明らかとなった。オンラインやリモートが公営競技売上の主流となったとはいえ、幅広い層が集える場であることが望ましい。災害時の避難場所など「地域資源」(鎌田 2004) として売上以外の役割も公営競技には求められることから、公営競技には参加しない市民との親和性も高める必要がある。

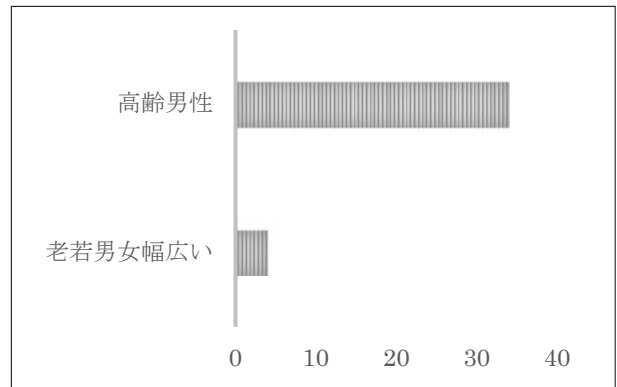


図 4-6：公営競技入場者の属性

(7) 依存症対策など、セーフティーネットが網羅されていなかったという指摘がありますが、こうした対策がなされなかった阻害要因として何が原因であったか (複数回答)

国は、IR (カジノ) 推進にあたって、IR 関連法と同時に「ギャンブル等依存症対策基本法」を制定した。この背景には既存のギャンブルにおいて参加者の自主性に委ねることへの限界と施行者、業者などへの規制の 2 つの意義があった。

結果は、「関係法令」が 26 件と最も多く、「その他」8 件、「主催者」5 件、「参加者」5 件の順であった [総数 = 44]。「その他」では、「自己責任」、「パチンコが先」

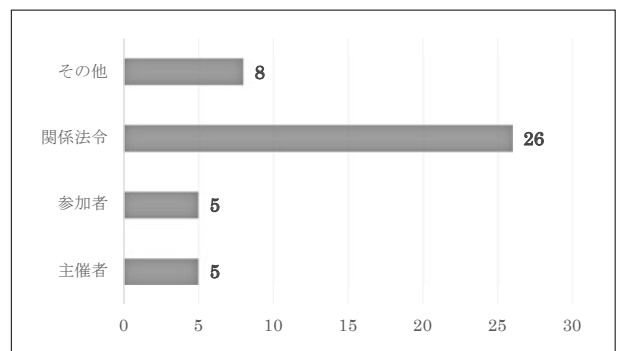


図 4-7：セーフティーネット網羅に至らなかった阻害要因

などの意見があり、ギャンブル依存症対策の難しさが明らかとなった。公営競技においては関係法令ありきで、あらゆる施策が動くことになる。反面、撤退などは自治体裁量で可能となっており、カジノでは規制と裁量について公営競技を参考に決定する必要がある。戦後の早い時期に導入された「トップダウン」の公営競技とは異なり、自治体を中心に多くの裁量を与える方向性が現実的である。

(8) 高齢者に特に配慮した施策展開は必要であるか

高齢者への配慮、施策については「必要である」が多かった(71.1%) [総数 = 38]。

レース場などに来場できる高齢者は「健康」であるという認識であろうが、筆者の予想よりも「必要である」という回答が少なかった。高齢者の「居場所」という役割も公営競技は担う。来場者の大半が高齢者(男性)であることをふまえた配慮が求められる。

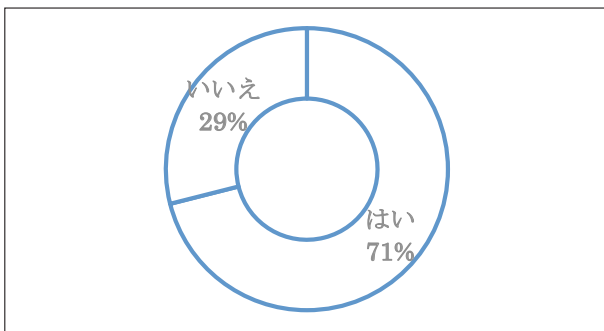


図 4-8：高齢者への特別な配慮、施策の必要性

(9) 具体的にいかなる施策が必要となるか(複数回答)

先の質問において、「必要である」と回答した施行者を対象とした。「施設のバリアフリー対策」が最も多く17件、「ギャンブル依存症対策」16件、「家族への連絡など緊急時対応策」14件、「医療対策」8件、「認知症対策」7件、「その他」1件の順であった [総数 = 56]。高齢者への施策としては多岐に渡っており、実際に対策を施す

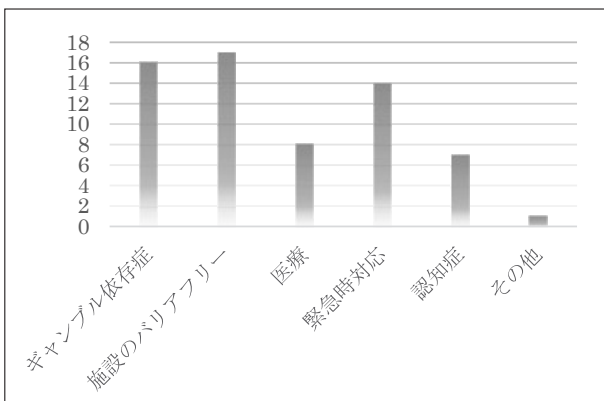


図 4-9：高齢者への具体的な施策とは

場合には、コスト増が予想されるが、ケアの視点が重視されよう。ギャンブル依存症対策はカジノとの関連で形式的には網羅されたといえるが未だ改善の余地がある。

(10) カジノが開業されるとしたら、公営競技のどの側面に影響を及ぼすか(複数回答)

1：売上31 2：参加者12 4：マスコミなどへの露出4
4：その他4
〈特に影響なし3、法令順守1〉

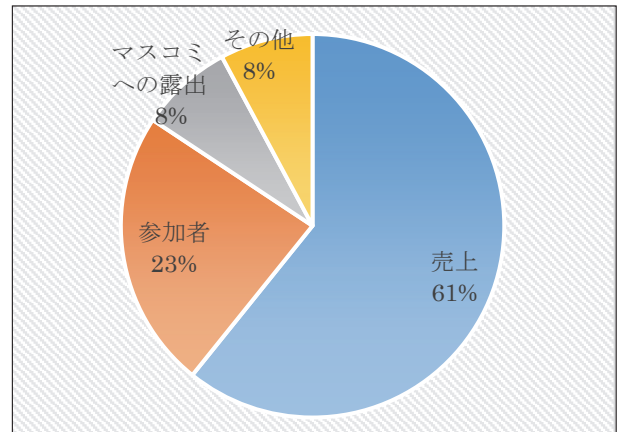


図 4-10：カジノ導入時の公営競技への影響

カジノ導入時の公営競技への影響としては「売上」が最も多く(60.8%)、「参加者」(23.5%)、「マスコミなどへの露出」(7.8%)、「その他」(7.8%)の順であった [総数 = 51]。やはり、選択肢が増えることによる売上と参加者の動向、減少が懸念されていることが明らかとなった。反面、「その他」では、「特に影響なし」という意見が3件あり、高い次元で売上が維持されている施行者があるという示唆も得られた。

(11) 実施している公営競技

1：競馬1 2：競輪28 3：オートレース2 4：競艇8
本調査に回答された施行者の競技属性としては競輪

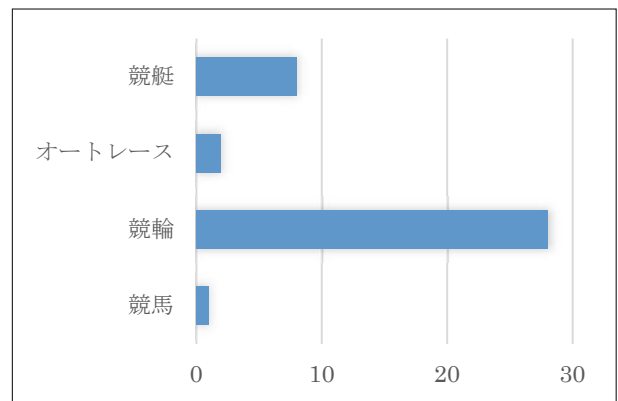


図 4-11：回答施行者の競技属性

が最も多く(71.8%)、競艇(20.5%)、オートレース(5.1%)、地方競馬(2.6%)であった。競輪はレース場の数が最も多く、単独施行者も多い。基本的にはレース場数、調査票発送時点における単独施行者数に即した回答数が得られた。なお、1件は競艇、競輪の2競技を主催しているため、各競技に「+1」ずつ加えており母数を39としてグラフを作成した。

(12) 当該自治体における公営競技関連部署の回答日現在の人員

【最小値0、最大値263、平均値22.8(単位:人)、標準偏差(SD)48.23】

質問の趣旨としては雇用形態に関わらず、役所部署での人員数を確認することが目的であった。臨時・嘱託・再任用など多様な職員がおり、そうした者を織り込むか否かは判断が分かれたとみられる。「0」が1件みられたが、民間委託方式によって運営されていることが推察される。仮に民間委託方式を採用していたとしても、少なからず職員はかかっていると考えられる。すなわち実質的には「0」はないと考えられる。他方、「263」など100人を超える数値が2件みられたが、こちらは臨時・嘱託・再任用など多様な職員を含めた人員数であると推察される。したがって、数値のばらつきは多くなっているが、それほど多くはない人員で公営競技を担当するのが主流と考えられる。今後、本問のような質問の際には雇用形態を限定して行うことの必要性も示唆された。(12)と(13)については、以下に「表4-1」としてまとめた。

(13) 当該自治体における当該公営競技の年間主催日数

【2017年4月1日～2018年3月31日】

【最小値12、最大値243、平均値70.8(単位:日)、標準偏差(SD)54.10】

質問の趣旨としては1年間の主催日数の確認をすることが目的であった。競技によって年度区切り、年区切りの違いはあるが実態に近い数値であると考えられる。競艇、オートレースは主催日数が多く、競輪は50日前後の数値が多かった。競艇は公営競技のなかで最も売上が

多く主催日数も多いと考えられる。オートレース全体の売上は低いものの場数が限定(全国5場)されていることから、1場あたりの主催日数は多いと考えられる。前問同様、数値のばらつきが多くなっている。前述したように、競輪については1か月に3、4日程度の主催を12回(12か月)、行うのが主流であるといえる。競輪は施設、土地ともに施行者が所有している場が多く、費用対効果のこともあり、いたずらに開催日を増やすだけ得策ではないという側面が考えられる。その一方、コロナ以前から導入されている「無観客」のミッドナイト競輪は費用抑制に効果を発揮するため現在では不可欠なレースとなっている。

「写真4-1」においては、それぞれの月の上段が主催(本場開催)で、下段が場外(他主催者)の発売日程(スケジュール例)である。「1開催は3日間」が基本となっており、1月は1開催、2月は3開催、3月は2開催となっている。2月はミッドナイト競輪を2度開催している。ミッドナイト競輪を複数開催したことにより、比較的多い主催となっていたと考えられる(松戸競輪場:2020年1～3月)。

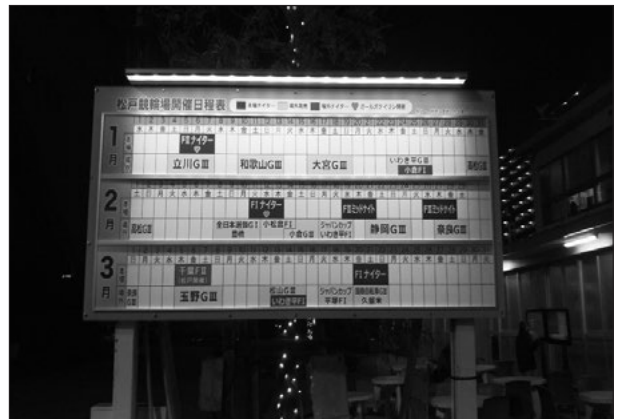


写真 4-1：競輪のスケジュール例 (2020年：筆者撮影)

4.2. 調査②

調査②の概要と詳細については以下の通りである。

依頼数 5,114人 調査依頼した対象者数
有効回答数 1,044人 集計対象とする有効回答の対象者数
回収率 20.4% (有効回答数 / 依頼数)

表 4-1：公営競技関連部署人員と年間主催日数(平均値)

区分	公営競技関連部署人員(12)	1年間の主催日数(13)
全体(平均値)	22.8人	70.8日
競艇	68.4人	151.3日
地方競馬	32.0人	12.0日
競輪	10.5人	49.6日
オートレース	14.0人	99.5日

出典：集計結果を基に筆者作成

表 4-2：調査②における分析対象者の属性

属性	区分	N	割合 (%)
性別	男	525	50.3
	女	519	49.7
年齢	平均年齢 70.3±4.47 歳 (最小値 65, 最大値 89)	1044	
同居人数	独居	172	16.5
	1 人	512	49.0
	2 人	222	21.3
	3 人以上	138	13.2
子の有無	別居している子がいる	608	58.2
	同居している子がいる	153	14.7
	別居・同居ともに子がいる	103	9.9
	子はいない	180	17.2
生活状況	自営業	59	5.7
	アルバイト・パート	157	15.0
	正社員	62	5.9
	主婦	282	27.0
	学生	0	0.0
	無職	441	42.2
	その他	43	4.1

問 1～問 5 については、上記「表 4-2」としてまとめた。

表 4-3：問 6 の結果

Q6 A：体を動かしたい B：ごろごろしてたい
ご自身の考えや行動に近いと思われるものを、1つ
だけお答えください。

1 段目 度数 2 段目 横%	0	1	2	3	4
	TOTAL	A	どちらか といえば A	どちらか といえば B	B
0	1044 100.0	257 24.6	528 50.6	234 22.4	25 2.4

表 4-4：問 7 の結果

Q7 A：一人で過ごしたい B：友達と過ごしたい
ご自身の考えや行動に近いと思われるものを、1つ
だけお答えください。

1 段目 度数 2 段目 横%	0	1	2	3	4
	TOTAL	A	どちらか といえば A	どちらか といえば B	B
0	1044 100.0	93 8.9	554 53.1	361 34.6	36 3.4

表 4-5：問 8 の結果

Q8 A：手軽で誰にでも楽しめる活動が好き
B：挑戦的で奥深い活動が好き
ご自身の考えや行動に近いと思われるものを、1つ
だけお答えください。

1 段目 度数 2 段目 横%	0	1	2	3	4
	TOTAL	A	どちらか といえば A	どちらか といえば B	B
0	1044 100.0	132 12.6	743 71.2	144 13.8	25 2.4

表 4-6：問 9 の結果

Q9 A：人の役に立つことは喜びなので自由時間はそう
した活動に使う
B：自由時間は自分の楽しみや将来のために使いたい
ご自身の考えや行動に近いと思われるものを、1つ
だけお答えください。

1 段目 度数 2 段目 横%	0	1	2	3	4
	TOTAL	A	どちらか といえば A	どちらか といえば B	B
0	1044 100.0	52 5.0	266 25.5	631 60.4	95 9.1

表4-7：問10の結果

Q10 A：映画やコンサートに行く
 B：出かけるよりは家でテレビなどを見る
 ご自身の考えや行動に近いと思われるものを、1つだけお答えください。

		0	1	2	3	4
1 段目 度数 2 段目 横%	TOTAL	A	どちらか といえば A	どちらか といえば B	B	
	0	1044 100.0	77 7.4	365 35.0	514 49.2	88 8.4

表4-8：問11の結果

Q11 A：自然のなかにいると落ち着く
 B：人のなかにいると落ち着く
 ご自身の考えや行動に近いと思われるものを、1つだけお答えください。

		0	1	2	3	4
1 段目 度数 2 段目 横%	TOTAL	A	どちらか といえば A	どちらか といえば B	B	
	0	1044 100.0	245 23.5	637 61.0	145 13.9	17 1.6

表4-9：問12の結果

Q12 A：自分を向上させることをしたい
 B：今を楽しみたい
 ご自身の考えや行動に近いと思われるものを、1つだけお答えください。

		0	1	2	3	4
1 段目 度数 2 段目 横%	TOTAL	A	どちらか といえば A	どちらか といえば B	B	
	0	1044 100.0	108 10.3	375 35.9	484 46.4	77 7.4

表4-10：問13の結果

Q13 A：リスクがない前提（たとえば、自己負担がない
 など）があれば、ギャンブルをしたい
 B：どんなことがあってもギャンブルには絶対に参
 加しない

以下では、ギャンブルについて、お伺いいたします。
 ギャンブルとは、宝くじ・スポーツ振興くじ（サッ
 カーくじなど）、パチンコ（パチスロ含む）、競馬、
 競輪、競艇、オートレースをはじめ、海外における
 カジノなどの合法的なギャンブルを指します。ご自
 身の考えや行動に近いと思われるものを、1つだけ
 お答えください。

		0	1	2	3	4
1 段目 度数 2 段目 横%	TOTAL	A	どちらか といえば A	どちらか といえば B	B	
	0	1044 100.0	77 7.4	452 43.3	304 29.1	211 20.2

表4-11：問14の結果

Q14 A：ギャンブルをしたい、したことがある
 B：徹底的に節約をして、地道にコツコツ貯金をする
 以下では、ギャンブルについて、お伺いいたしま
 す。ギャンブルとは、宝くじ・スポーツ振興くじ
 （サッカーくじなど）、パチンコ（パチスロ含む）、
 競馬、競輪、競艇、オートレースをはじめ、海外
 におけるカジノなどの合法的なギャンブルを指し
 ます。ご自身の考えや行動に近いと思われるもの
 を、1つだけお答えください。

		0	1	2	3	4
1 段目 度数 2 段目 横%	TOTAL	A	どちらか といえば A	どちらか といえば B	B	
	0	1044 100.0	129 12.4	426 40.8	369 35.3	120 11.5

表4-12：問15の結果

Q15 「ギャンブルに参加する際に重視する条件」
として、当てはまるものをお答えください。

1 段目 度数		0	1	2	3	4	5
2 段目 横%		TOTAL	重視する	どちらかといえば重視する	どちらでもない	どちらかといえば重視しない	重視しない
1	スリルや冒険を体験する	555 100.0	17 3.1	146 26.3	250 45.0	102 18.4	40 7.2
2	広範囲の人と交流する	555 100.0	18 3.2	114 20.5	227 40.9	129 23.2	67 12.1
3	楽しいことをする	555 100.0	58 10.5	318 57.3	142 25.6	27 4.9	10 1.8
4	儲かる可能性がある	555 100.0	52 9.4	313 56.4	143 25.8	35 6.3	12 2.2
5	娯楽の選択肢となりうる	555 100.0	24 4.3	253 45.6	197 35.5	55 9.9	26 4.7
6	ストレス解消・現実逃避をする手段として参加する	555 100.0	14 2.5	157 28.3	211 38.0	114 20.5	59 10.6

質問項目の設定にあたり、レジャーに関する「レジャー志向性尺度」(佐橋 2010) をベースとした。その上でギャンブル参加・経験については、依存症診断基準や過去に実施された公営競技参加動機アンケートを採り入れた質問項目を設定した。本稿においては紙幅の関係上、すべての項目について論考は行わないが、本稿に関連する問14と問15については捕捉して以下に記述する。

問14において、「ギャンブルをしたい、したことがある」の積極回答(A、どちらかといえばA)が合計で53.2%であった(ギャンブル志向、経験)。これらの回答者のみが問15へと進んだ(n=555)。問15：ギャンブル参加条件としては「1」、「2」の積極回答数合計が、「4」、「5」の消極回答数合計を大幅に上回りギャンブルに「拘り」をもって参加していることが明らかとなった。とくに、「楽しいことをする」の「積極回答」が「儲かる可

能性がある」の「積極回答」よりも上回っていた点については、必ずしもギャンブルが「金銭」に直結しないことを示唆している(表4-11、同4-12、図4-12、同4-13)。問16の自由回答では「頭の体操」、「運試し」など多様な意見がみられた。

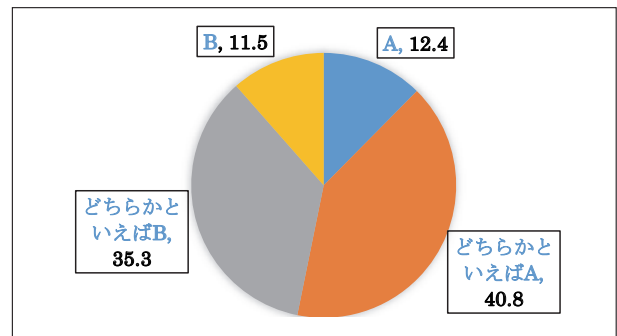


図4-12：問14に関するグラフ (単位：%)

■重視する ■どちらかといえば重視する ■どちらでもない ■どちらかといえば重視しない ■重視しない

左「重視する」から順に表示

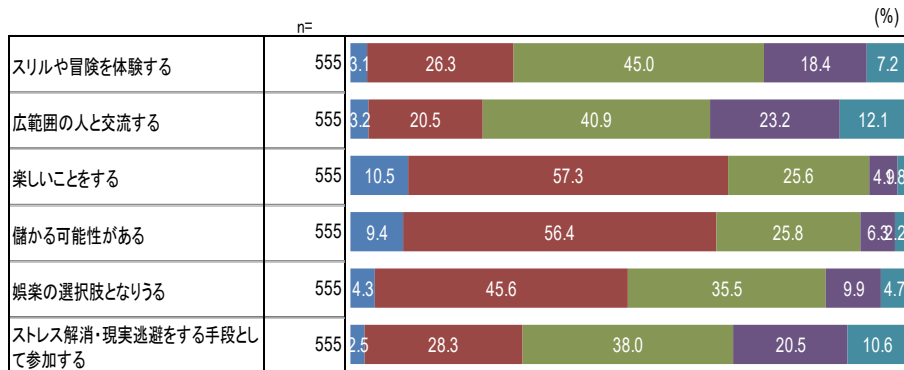


図4-13：問15に関するグラフ (単位：%)

4.3. 調査③

表 4-13：各レース場におけるエスノグラフィーに依拠したデータ概要

区分	アクセス	観客	施設	動線	イベント・サービス
千葉競輪 〔「千葉JPFドーム」 として竣工〕	普通 送迎あり	高齢男性中心	老朽化	縮小、場内売店減 少	少ない
松戸競輪 【ナイター】有	送迎はないが、駅 近で良い	高齢男性中心もイ ベント日など例外 有	一部施設更新、一 部老朽化	近年、大幅に縮小 し、入場門、場内 売店も減少	多い イメージキャラク ター有
川崎競輪 【ナイター】有	普通 送迎あり	高齢男性中心	一部施設更新、老 朽箇所あり	一部縮小 入場門集約化	やや多い イメージキャラク ター 設定年度有
船橋オート (廃止前)	普通 送迎あり	高齢男性中心	老朽化	変化なし 動線広い	年1回の感謝祭は 存在したが少ない
川口オート 【ナイター】有	普通 送迎あり 近年、バス経路変 更あり	高齢男性中心もイ ベント日など例外 有	一部施設更新、新 たな工事中	縮小 場内売店も減少傾 向 入場門集約化	やや多い イメージキャラク ター有
伊勢崎オート 【ナイター】有	良くない 送迎あり 自家用車想定か	高齢男性中心もイ ベント日例外有	老朽化	変化なし 動線広い	多い、イメージキャ ラクター設定有

出典：筆者作成

調査③の概要については、上記「表 4-13」の通りである。基礎的事項は各競技 HP、福井（2016）を参考にした。「イベント・サービス」についてはコロナ禍前の状況を記述している。また、船橋オートについては2016年3月で廃止されているため、それ以前のデータとなる。

本稿におけるイベント・サービスとは各場オリジナル、若しくは一過性の事象を指す。従って、全場で実施されている「湯茶無料サービス」、「送迎サービス」などは含まない。

1) 千葉

開設：1949年、所有：千葉市、施行者：千葉市
一時は「廃止」も検討されたが存続が決定した。2017年末で本場におけるレースは一旦終了した。調査は改修工事前を中心とする。「千葉公園」内に立地しており多様な層を呼べる可能性がある。

アクセス：千葉駅から送迎バスがある。モノレール駅からは近い。観客：高齢男性中心、施設：老朽化、動線：縮小、イベント・サービス：「外れ車券」を競輪場外の牛井チェーン店での提示による割引などがあったが全般に少ない。2021年5月、新たなレース場である「千葉JPFドーム」が竣工した。

2) 松戸

開設：1950年、所有：松戸公産（株）、施行者：松戸市
アクセス：北松戸駅から近くアクセスは良い。観客：高齢男性中心もイベント開催日には多様な年齢層の来場がある。施設：一部老朽化、動線：元来、レース場を「1周」できる希少なレース場であったが年々減少

し現在では1/4程度の動線となった。場内店舗も減少している（写真 4-2）。イベント・サービス：ビッグレースも多く開催されており多い。イメージキャラクター（松戸応援大使：女性アイドル）が随時イベントに登場する。



写真 4-2：動線縮小が進む松戸競輪場の観客席
(2020年：筆者撮影)

3) 川崎

開設：1949年、所有：川崎市、施行者：川崎市
アクセス：川崎駅から送迎バスがある。観客：高齢男性中心、施設：一部老朽化も更新施設も有り。牛井チェーン店も撤退するなど場内店舗の入れ替わりは早い。動線：一部、縮小されたが大きな変化はない（写真 4-3）。イベント・サービス：松戸より少ないが千葉よりは多い。場内案内役の他にイメージキャラクターを設定していた時期もある。場内施設を利用した音楽イベントなども開催される。後述する川崎競馬場が近隣に立地している。



写真 4-3：照明が灯る川崎のナイター競輪
(2020年：筆者撮影)

4) 船橋

開設：1950年、所有：(株)よみうりランド [施設]、三井不動産(株) [土地] 施行者：千葉県、船橋市

1950年船橋競馬場内に開設されたが競馬場からほど近い場所へ1968年に移転して2016年に廃止された。移転、施設と土地の権利関係や県と市の施行者など公営競技場のなかでも複雑な背景があったといえよう。なお、「サテライト船橋」という競輪の場外車券発売施設を2008年から場内に併設していた。

アクセス：南船橋駅から近いが京葉線の本数が少なく良くはない。駅前から送迎バスがあった。観客：高齢男性中心、施設：老朽化、動線：廃止される前も大きな縮小はなかった。イベント・サービス：年に1回、「ファン感謝祭」を実施していたが全般に少なかった。

5) 川口

開設：1952年、所有：川口市、施行者：川口市

アクセス：西川口駅、南鳩ヶ谷駅から送迎バスがある(入門場集約化に伴う経路変更が有り以前よりも時間を要する：2020年)。観客：高齢男性中心も家族連れなども散見される。施設：一部施設改善され、近年新たな工事も始まっている(写真4-4)。動線：工事の影響もあるが大幅に縮小傾向である。イベント・サービ



写真 4-4：施設改善が進む川口オート
(2022年：筆者撮影)

ス：減少傾向にあるが一定数ある。1978年から2018年までは毎年8月に川口オートにて「たたら祭り」を開催してオートファン以外の来場も多数あった。この祭りにはオート選手も多数参加しており、「市民一体型」のイベントであった。イメージキャラクター(川口オートイメージガール：女性タレント)が随時イベント、チェッカーフラッグ(ゴール線通過時における伝達)、試走誘導などに登場する。

6) 伊勢崎

開設：1976年、所有：東京都競馬(株)、施行者：伊勢崎市

1954年大井競馬場隣接地に開設されたが1973年：閉鎖されて、伊勢崎に移転した形である。なお、東京都競馬(株)は大井競馬場の所有者であり東京都が出資する第3セクターである。都は直接的な施行者ではないものの、競馬とオートに関わっている。

なお、「オフト伊勢崎」という地方競馬の場外馬券発売施設を2013年から、「J-PLACE 伊勢崎」という中央競馬の場外馬券発売施設を2014年から場内に併設している(写真4-5)。

アクセス：自家用車での来場を基本としているのか送迎バスの本数が少ない⁵。市民の足であるコミュニティバスは本数が多くレース場へアクセスが可能である。車がない場合、アクセスは悪い。観客：高齢男性中心である。施設：全般に老朽化している。動線：特に変化はない。イベント・サービス：川口の「たたら祭り」のような市民一体型の「いせさきもんじゃまつり」など含めて多い。イメージキャラクター(グリッドガールズ)を設定している。

総じていえるのは、送迎があり、高齢男性中心、施設老朽化、動線縮小傾向、ということ、イベント・サービス展開については場によって差異がある点である。ナイターレースを実施している場はイベント・サービスが多



写真 4-5：馬券も購入できる伊勢崎オート
(2021年：筆者撮影)

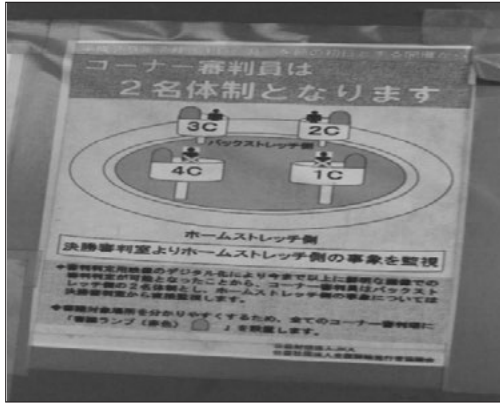


写真 4-6：削減されたコーナー審判員
(2020年：筆者撮影)

い傾向にある。また、「写真4-6」のように細部に至るまで「事例：競輪におけるコーナー審判員削減」経費削減が進行している。「4角」(4コーナー) があるために、4人の審判がいたが2人となった。カメラ性能の向上などが理由として考えられるが、近い将来、この2人すらもコーナーから姿を消す可能性がある。公営競技は公正かつ公平なレース運営が絶対条件であり、経費削減と引き換えにそれらが形骸化されることがないように注視する必要がある。

イベントサービスの典型例が船橋オートである。廃止のかなり前からイベント・サービスは些少で場内は閑散とすることが多かった。「廃止方針」と伝えられていた千葉競輪も同様の状況であったが、国際規格の競輪場を含む一帯の整備を施したうえで、現在、場内で金銭を伴わない発売形式で競輪を実施している。(写真4-7)。

5. 考察 (現状分析)

売上形成の中心は来場者から電話・インターネット投



写真 4-7：新たな千葉競輪 (千葉 JPF ドーム) の外観 (2021年：筆者撮影)

票が中心となり、来場者の中心は高齢男性が中心となった(高齢者の半数以上でギャンブル志向・経験がある)。ギャンブル参加者は「娯楽の選択肢として楽しみ、且つ儲ける」ために参加している。他方、施行者は「売上」を上げるためにギャンブルを実施しており、船橋オートのように廃止が前提となれば、来場者に対するイベント・サービスは軽視され、施設更新も必要なくなり老朽化が進行する。全般に施設の老朽化など高齢者への配慮は少ない(レースに不可欠な限定的な改修は随時行われている)。

公営競技は元来、来場した客を昼間に迎える形式が「出発点」である(中央競馬以外の公営競技については平日の昼間が基本であった)。すなわち、電話やインターネットなど、レース場の「外」から投票できる仕組みがない「発売形態」が起点となっている。

1987年の大井競馬(地方競馬)のナイターレース開始を契機として、公営競技の開催時間帯の変革が起き、現在ではオンラインやリモートが公営競技売上の主流となったとはいえ、幅広い層が集える場であることも起点である。公営競技場は規模が大きく、地域住民にとって物理的、心理的影響が考えられる。公営競技の趣旨は財政的貢献を基軸とした「社会貢献」にある。それは財政的貢献に止まらず、災害時の避難場所としての利活用など売上以外の役割も公営競技には求められよう(写真5-1)。

①来場=売上ではない時代、②健康な高齢者が中心の来場、という背景を考えると、アンケート結果にも示されたように「高齢者に対する特別な配慮は不要」ということになる。しかし、財政貢献と共に社会貢献を標榜す



写真 5-1：「広域避難場所」に指定されている川崎競輪場 (2021年：筆者撮影)

るにあたり、顧客行動に変容はあっても一定の配慮は必要であろう。

継続して運営される場（ナイターレース開催がある場）については適切な施設更新やイベント・サービスが実施されている。「写真5-2」の川崎競馬にみられるように、イベント開催は老若男女の来場を促進しており、そうしたレース場が継続していることは売上にも貢献があることを示唆している。売上があれば、イベント開催もできるという好循環である。

すなわち、来場が高齢男性中心のレース場運営についても、本来は「老若男女」が集うレース場とすることが求められる。特定層のみでは、将来的に持続可能性が低下するからである。来場者の属性を把握しながら対策が講じられていないとすれば、来場しない層に対する対策を講じることは難しい。なぜなら、オンライン、リモートの投票者もレース場での体験が起点となっていると考えられるからである。総じては、現段階では若年者を含む幅広い層への波及は見込めないと考えられる。

「体験」なくして、レース場の外での投票行動（消費行動）には直結しない。すなわち、レース場での観覧を経ずに唐突に代替手段というべき、「電話・インターネット投票」には移行しない。公営競技には選手、騎手、馬など多くの「情報」と独特な「雰囲気」が背景にあり、宝くじのように背景や知識を必要としない机上のギャンブルとは一線を画すからである。この「体験」をしてもらうには、より多くの時間帯のレースを提供する必要がある。そうした観点からすると、競輪・オートには競艇・競馬にはない以下の「先進事例」がある。

たとえばコロナ流行前から実施されている「ミッドナイトレース」は無観客開催且つ深夜に及ぶレースであ

る、また、ミッドナイトや通常ナイターとも異なる時間帯に実施されるナイターレース（伊勢崎の場合：「アフター5ナイターレース」、写真「5-3」）も開始された⁷。無観客であることから場内清掃もほとんど不要となり、売店営業もなく、人件費の削減ひいては収益の確保に大きな役割を果たしている。コロナ禍においては売上推移を見る限り、こうした施策が功を奏した面がある。しかし、選手のモチベーション維持や場内の雇用喪失などをふまえるとプラスばかりではない。あらゆる面を考慮して将来的に持続可能な競技とするには、従来のレース形態かつレース場運営が一定数（時期）確保される必要が



写真 5-3：伊勢崎オートで実施されている「アフター5ナイターレース」（2021年：筆者撮影）



写真 5-2：イベントが活況の川崎競馬ナイター（2019年：筆者撮影）

ある⁸。現状では、高齢男性への配慮もなされておらず、高齢者を中心としながらも、老若男女、多様な階層来場を促進する施策展開が求められよう。

イベント参加目的のみでも参加できるのが公営競技である。この点がパチンコとの大きな相違点である。少子高齢化は多方面に影響を及ぼすが、来場者の中心である高齢男性が「退場」したあとの来場者を確保する必要がある。イベント・サービスはそれに寄与する唯一の手段であるといえ、SNSなどを駆使した効果的な市民周知、広報活動を通じてそれらを充実させることが求められる。

また、船橋と伊勢崎にみられるように場内に他競技の場外発売施設を有することも人を呼び込む。これは競輪と比較すると敷地や建物が広大なオートレースならではの施策であったといえる。船橋、伊勢崎を例にとれば限定された空間である競輪、競馬の発売施設は常に盛況であった⁹。土地、施設所有者が関係するため、どの場でも展開できる施策ではないが多様な競技に容易にアクセスできる環境は、ひいては場内に活気を取り戻す契機となる。必ずしも、場内ではなく横浜にみられるように徒歩圏内に、すべての公営競技の場外発売施設が立地することも一定の相乗効果を生むことが考えられる（資料5-1）¹⁰。

現状分析については、「表5-1」として整理した。施行者視点としては、1) リモートによる発売、2) 無観客レース、3) 場外発売施設設置、4) 多様な時間帯のレース、5) 限定的な施設改善・改修、6) 場内動線の縮小

表 5-1：現状分析

施行者視点（施策）	参加者視点（目的と行動）
リモート（電話・インターネット）による発売	「楽しいことをする」 「儲かる可能性がある」 「娯楽の選択肢となりうる」 上記3点が重視されている
無観客レース	
場外発売施設設置	アクセスは送迎サービスなどで補完されているが、施設老朽化、動線縮小の影響もあり居場所としての環境は低下している
多様な時間帯のレース実施	
限定的な施設改善・改修	
場内動線の縮小	

出典：筆者作成

が挙げられる。場外発売施設や多様な時間帯のレース実施は参加者視点の側面があるものの、これらの大半に通底しているのは、経費削減や売上増に関する施策といえる。

参加者視点としては、「楽しいことをする」が最も多く「儲かる可能性がある」を上回った。総じては、「娯楽の選択肢として儲かる可能性があるギャンブルを楽しむ」姿勢で参加しているといえる。一方、レース場によっては施設老朽化や動線縮小が進んでおり、高齢者が主流の「オフライン」の「居場所」としての質は低下・縮小しているといえよう。

6. 結論

本稿では、公営競技のなかで売上が低迷している2つの公営競技（競輪、オートレース）に着目して考察したが、競馬、競艇も盤石ではない。競馬であれば競走馬の飼料への違法薬物混入事件、競艇であれば八百長事件などが近年も発覚している。こうした事象は今に始まったことではないものの、結果的には一時的な「対処療法」で終わってしまい、同様の不祥事が何度も繰り返されている。

ギャンブルへの参加条件として、「儲かる可能性がある」が高い数値を示していたが「命」の次に重要な「金」を賭けるのがギャンブルである。主催者は公正な環境で実施することはもちろんだが、「娯楽」として「楽しい」ギャンブルも目指す必要がある。売上至上主義ではなく、あくまでもファン（参加者）の視点をふまえた施策展開が求められる（写真6-1）。

本稿で明らかになった再興に向けた課題（提言）は以下の通りである。

第一に、施行者は来場者の中心は高齢男性であると把握しているものの、高齢者への配慮については必ずしも



資料 5-1：「国内唯一、全ての公営競技が徒歩圏内に集合！」

出典：横浜公営競技6 場外発売所
(2015：ヨコハマエキサイティング6)



写真 6-1：「お客様ファースト」のスローガンのある場内ポスター@小田原競輪
(2020年：筆者撮影)

考慮されていない。

第二に、「参加条件」に見合った、施設更新やイベント・サービスがレース場によっては、なされていない。また、そのようなレース場は廃止される可能性が高まる。施設更新、イベント・サービスは費用を要するが事業継続には不可欠な施策であるといえるし、そうした投資は必要である。

第三に、全国的に、早朝から深夜まで多様な時間帯のレースが実施されている。ファンの行動様式の多様化に対応した施策ともいえるが、あくまでも施行者の売上(収益)を重視した施策であり、公営競技の起点・基本である「来場型」のレースの確保が求められる。来場したファンが各競技の魅力周囲、家族などに伝達する役目を担うからである(新規開拓)。また、開催時間帯は、これまでの実績から多様な年齢層の来場が見込めるナイターレースが最も適していると考えられる。

前述したように、1場あたりの売上(総売上額/場数)は競艇が872億円、地方競馬が608億円、競輪が174億円、オートが189億円となっている。競艇には及ばずとも、競輪とオートの「売上合計」を地方競馬のレベルまで引き上げることは不可能ではないだろう。たとえば、

競輪場1場あたり約4億円上昇させるだけで達成可能である(図6-1)。

オールドファンをはじめとする高齢者の半数以上はギャンブル経験・志向があり、そして若年者など新たなファンについてはネット環境との親和性がある。したがって、従来の高齢者を中心としながらも、幅広い層を顧客として意識した対策を講じることが不可欠となってくる。本稿で対象外とした中央競馬は比較対象とするには来場者数、施設、売上など比較対象になり得ないほど明らかな違いがある。逆にいえば、中央競馬の「多様な来場者」、「豪華施設」、「多くの売上」が持続可能な公営競技(収益事業)となる。出発点が異なるため、一概に「中央競馬を目指せ」とは論定できないが、中央競馬を手本に可能な施策は適切に実行することが再興に向けて重要となってくる。競輪・オートの売上低迷要因は、「草創期から売上を支えてきた、いわば主要顧客である高齢者への配慮がなされておらず、幅広い層への波及が見込めないこと」が示唆された¹¹⁾。

なお、本稿では調査会社を通じた大規模な調査を実施したが本来は公営競技場に来場するファンに対して調査を行うことでより実態に即した検討が可能となると考えられるが、有効回答は、ほとんど望めないと考えられる¹²⁾。各競技で施行者が実施する調査が行われることに期待したい。他方、レース場の所有形態と開催日数の関係は個々に詳細分析の必要があり、所有がなくとも、どの程度まで開催を増やすことが可能かという点についても検討の余地はあろうが公開される情報を注視したい。

公営競技を実施することにより得られる財源的利益をどのように活用するかという検証についても意義がある。しかし、各競技の振興団体による収益金の用途については一定の開示がなされているが、自治体においては一般会計に組み込まれた後の用途については一部の自治体を除いて開示されていない。よって、具体的な用途の検証は不可能となっている。

また、本稿で実施した調査・観察については、コロナ以前から最中に係る時期も含まれており、調査・観察の結果などについては各々、個別に考慮する必要がある。そして、関東地方のレース場に限定したため地域によっては異なる結果となる可能性がある。

コロナの長期化により、最近では「イベント」につい



図 6-1：再興に向けた課題(提言)

でも、YouTube など「オンライン」で開催されるケースが散見される。高齢者にとっては必ずしもオンラインへの「アクセス」が容易ではないことも想定される。IT や AI が普及したとはいえ、エッセンシャルワーカーにみられるように、あらゆる事象について、すべてをオンラインやリモートで処理することはできない。若年者には有効であるが、高齢者にとっては必ずしも有効ではない。施行者には高齢者の実態に即した施策展開が望まれる。

公営競技において主催者などが提示する情報量は必ず

しも多くはないが、本研究により、競輪とオートレース再興の議論の拡張とともに、実践的な示唆を提供するものと期待される。

本研究の一部は、公益財団法人横浜学術教育振興財団の「研究助成」(2017 年度) と文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (牽引型)」により横浜国立大学から「ダイバーシティ * 研究助成」(2019 年度) の支援を受けて実施された。

[参考資料]

調査①：公営競技政策に関するアンケート

●公営競技政策●

問1 公営競技を維持する上で最も重要な要素は何であると思いますか。

1つだけご回答ください。

1：売上 2：来場者 3：施設 4：その他 ()

問2 市民に対する公営競技の広報活動を行う場合、どの方法が適切であると思いますか。あてはまるものをいくつでもご回答ください。

1：自治体の広報誌 2：TV・ラジオ 3：HP (インターネット) 4：その他 ()

問3 公営競技の売上を左右するものは何であると思いますか。

あてはまるものをいくつでもご回答ください。

1：立地 2：施設の充実 3：競走のグレード 4：その他 ()

問4 公営競技は、「財政政策」の一環という位置づけですか。

1つだけご回答ください。「いいえ」をご回答の場合、具体的な政策をお答えください。

1：はい 2：いいえ ()

問5 日本はギャンブルの種類が豊富で、「公営」としては、競馬・競輪・オート・競艇、宝くじ、スポーツ振興くじなどがあります。カジノが導入される場合も、公営が適切であると思いますか。1つだけご回答ください。

1：はい 2：いいえ

問6 公営競技の入場者はこういった属性が多いと思いますか。

1つだけご回答ください。

1：老若男女幅広い 2：富裕層 3：高齢男性 4：高齢女性
5：低所得層 6：その他 ()

問7 公営競技においては、依存症対策など、セーフティーネットが網羅されていなかったという指摘がありますが、こうした対策がなされなかった阻害要因として何が原因であったと思いますか。あてはまるものをいくつでもご回答ください。

1：主催者 2：参加者 3：関係法令 4：その他 ()

問8 少子高齢化が進行し、仮にカジノが導入された際には、高齢者が多く参加することが予想されます。高齢者に特に配慮した施策展開は必要であると思いますか。1つだけご回答ください。

1：はい 2：いいえ

問9 問8で1を回答された場合のみお答えください。

具体的にいかなる施策が必要ですか。以下からお答えください。あてはまるものをいくつでもご回答ください。

1：ギャンブル依存症対策 2：施設のバリアフリー対策 3：医療対策
4：家族への連絡など緊急時対応策 5：認知症対策 6：その他（ ）

問10 日本にカジノが開設されるとしたら、公営競技のどの側面に影響があると思いますか。あてはまるものをいくつでもご回答ください。

1：売上 2：参加者 3：マスコミなどへの露出 4：その他（ ）

問11 貴自治体において、実施されている公営競技を、ご回答ください。

1：競馬 2：競輪 3：オートレース 4：競艇

問12 貴自治体における公営競技関連部署の回答日現在の人員を、数値でお答えください。

問13 貴自治体における当該公営競技の昨年度の年間主催日数

【2017年4月1日～2018年3月31日】を、数値でお答えください。

調査②：レジャー・ギャンブル志向性に関するアンケート

●あなた自身のことについて●

Q1 あなたの性別をお答えください。

1：男性 2：女性

Q2 あなたの今日現在の年齢（満年齢）を数字でご記入ください。

Q3 同居されている人数を以下からお答えください。

1：いない（ひとり暮らし） 2：1人 3：2人 4：3人以上

Q4 お子様はいらっしゃいますか。

1：同居はしていないが別居している子がいる 2：同居している子がいる
3：同居・別居している子、ともにいる 4：子はいない

Q5 あなたの現在のステータス（生活状況）をお聞きます。1つだけお答えください。

1：自営業 2：アルバイト・パート 3：正社員
4：主婦 5：学生 6：無職 7：その他（ ）

●レジャー・ギャンブル志向性●

ご自身の考えや行動に近いと思われるものを、1：「A」、2：「どちらかといえばA」、3：「どちらかといえばB」、4：「B」の4つのなかから1つだけ○をつけてお答えください。

Q 6 A：体を動かしたい B：ごろごろしていたい
1：A 2：どちらかといえばA 3：どちらかといえばB 4：B

Q 7 A：一人で過ごしたい B：友達と過ごしたい
1：A 2：どちらかといえばA 3：どちらかといえばB 4：B

Q 8 A：手軽で誰にでも楽しめる活動が好き
B：挑戦的で奥深い活動が好き
1：A 2：どちらかといえばA 3：どちらかといえばB 4：B

Q 9 A：人の役に立つことは喜びなので自由時間はそうした活動に使う
B：自由時間は自分の楽しみや将来のためにつかいたい
1：A 2：どちらかといえばA 3：どちらかといえばB 4：B

Q10 A：映画やコンサートに行く
B：出かけるよりは家でテレビなどを見る
1：A 2：どちらかといえばA 3：どちらかといえばB 4：B

Q11 A：自然のなかにいると落ち着く
B：人のなかにいると落ち着く
1：A 2：どちらかといえばA 3：どちらかといえばB 4：B

Q12 A：自分を向上させることをしたい
B：今を楽しみたい
1：A 2：どちらかといえばA 3：どちらかといえばB 4：B

以下では、ギャンブルについて、お伺いいたします。ギャンブルとは、宝くじ・スポーツ振興くじ（サッカーくじなど）、パチンコ（パチスロ含む）、競馬、競輪、競艇、オートレースをはじめ、海外におけるカジノなどの合法的なギャンブルを指します。

Q13 A：リスクがない前提（たとえば、自己負担がない等）があれば、ギャンブルをしたい
B：どんなことがあってもギャンブルには絶対に参加しない
1：A 2：どちらかといえばA 3：どちらかといえばB 4：B

Q14 A：ギャンブルをしたい、したことがある
B：徹底的に節約をして、地道にコツコツ貯金をする
1：A 2：どちらかといえばA 3：どちらかといえばB 4：B

Q15 以下では、前質問：Q14におきまして、1：A もしくは、2：どちらかといえばAと回答した方のみ、ご回答ください。ここからは回答形式が変更となります。「ギャンブルに参加する際に重視する条件」として、(1)～(6)のそれぞれについて、当てはまるものに、1つずつ○をつけてお答えください。

区分	重視する	どちらかといえば重視する	どちらでもない	どちらかといえば重視しない	重視しない
(1) スリルや冒険を体験する	1	2	3	4	5
(2) 広範囲の人と交流する	1	2	3	4	5
(3) 楽しいことをする	1	2	3	4	5
(4) 儲かる可能性がある	1	2	3	4	5
(5) 娯楽の選択肢となりうる	1	2	3	4	5
(6) ストレス解消・現実逃避をする手段として参加する	1	2	3	4	5

Q16 Q15の6項目以外にギャンブルに参加する際に重視する条件がございましたら、200字程度で自由に記述してください。

注

- 1 自治体が行う収益事業には水道、交通、病院などライフラインに関する事業の他に、競輪・オートレースといった公営競技もあてはまる。公営競技に関する研究蓄積は公営競技全般や歴史・制度に関する研究が主流であり（林 1962、古川 2002、石川 2010 など）、それ以外では、公営競技場として地域のなかでの物理的なあり方の研究（柏原・村上 1981、寄藤 2005 など）がある。
- 2 地方競馬と競輪の数値は「接近」しているが、15場の地方競馬と43場の競輪では詳細な財務分析を経ることなく状況は容易に把握できる。場数の多い競輪の売上が地方競馬を大幅に上回って当然である。
- 3 オートレースは1950年、船橋で誕生後、園田、長居、柳井が開設されたものの、いずれも開催売上が振るわず、この不振を見た他の自治体は開設を中止したり、競輪へと方針変更することもあった。オートレース場は競馬場やその跡地を利用したものが多かったが川口は初の専用走路となった。他にも「新人養成」、「選手宿舎建設」など川口オートがオートレース拡大の転機となった。華々しいスタートではあったが人気は続かない（中略）埼玉も陽の目を見ずに立ち消えそうなピンチに襲われた。すなわち、オートレースは発足当初から他の競技と比較すると売上が芳しくなかったが、川口についてはオートレース開設から積極的に取り組んできた結果、好調な滑り出しであったがそれも長くは続かなかったと記述されている（日本小型自動車振興会 2001）。
- 4 「一組」、正式には一部事務組合とは地方自治法 284 条第 2 項に規定される複数の自治体が行政サービスの一部を共同で行うことを目的として設置された組織を指す。公営競技の他、清掃・水道事業の一組も多い（総務省編 2015:8）。
- 5 オートレースをはじめ、多くの公営競技売上が高い時期、「アフターファイブのレジャーを先取りした伊勢崎オート」という特集に以下の記述がある。「続々とファンのマイカーが駐車場に吸い込まれていく」(Forbes1993:93)。今も昔も伊勢崎オートへのアクセスはマイカーが基本であるということである。ただ、高齢男性が来場者の中心であることを鑑みると改善の余地があるだろう。
- 6 再開後は「250競輪」として、1周250mの屋内木製バンクを舞台に、オリンピックや世界選手権などと同様の国際ルールに基づいて、通常の競輪とは異なる形式で実施されることが決まっている。現在の競輪は、1競輪場あたり年間15節46日開催が基本であるが（本文中で記述したが筆者による調査においても開催日数の平均値が49.6日であった）、新たな千葉競輪は年間50節以上、100日以上の開催を予定している。他の競輪場と比較すると倍以上の開催日数が見込まれる。再開時期については当初予定よりも遅延したが、2021年10月に「TIPSTAR DOME CHIBA」としてオープンした（千葉市 HP、千葉競輪場 HP）。
- 7 「ミッドナイトレース」は21時頃から23時過ぎまでにかけて行われるレースで、無観客で行われ、投票は電話・インターネット投票のみである。競輪は2011年、オートは2015年、競艇も2021年10月から実施されている。そして、2020年10月から川口オートでは従来の「ナイターレース」(15、16時頃から20時過ぎまで)、「ミッドナイトレース」という枠とは別時間帯に「川口ナイトレース」を新設した。7車立、8レース制、無観客で19時頃から22時前までにレースが行われる。ナイターレースよりも開始・終了が遅いが、ミッドナイトレースよりも早く終了し、無観客で行われる。ミッドナイトの場合、審判員など場内関係者の帰宅が遅くなることから労働環境に配慮した側面が考えられる。現在の公営競技は、1) 平日を中心としたデイレース、2) ナイターレース、3) モーニングレース、4) ミッドナイトレース、のほか川口、伊勢崎にみられる 5) 1) ~ 4) 以外の独自の時間帯のレースの5種がある。
- 8 公営競技は「11時頃から17時前」の、いわば「公務員の勤務時間帯」に即した運営が起点となっており、基本の時間帯である。
- 9 サテライト船橋は船橋オート廃止後、船橋競馬場外（同一敷地内）に再度、オートレース船橋（オートの場外発売施設）と併用施設として再開している。船橋オート場内の予想業者の一部も本施設において再開している。予想業者を配置する場外発売施設は希少である。
- 10 公営競技の売上チャネルは、「①本場」、「②電話・ネット投票」、「③場外発売」の大きく「3分類」となる。本稿では詳細に触れなかったが、「電話・ネット投票」の次に売上額が大きいのは「場外発売」である。場外発売とは「場外にある発売施設」や「本場における本場以外のレース発売」を指す。伊勢崎オートのように車がないとアクセス不便なレース場と比較すると場外発売施設はアクセスが良い場所に立地するケースが多く売上も伸びている。横浜と類似の取り組みとして、公営競技場のない山梨県で、周辺経済活性化を目指して全国初となった公営4競技発売施設「双葉」が2013年4月から運用されている。もともと、競輪の場外施設としてオープンし、競艇、オート、地方競馬も発売することになった。公営4競技が1か所で楽しめる施設は全国初である。複合型施設は、モニター設置など設備投資は必要だが取扱競技の拡大は集客力を高める。（財）余暇開発センター（1981:108）によれば、「公営競技ファンの競技間の重複参加率は49.5-60.4%」、というデータもあり、ギャンブル愛好者の高確度の横断的参加を踏まえた動きである。
- 11 2020年の中央競馬の売上は2兆9,834億円（千万円単位以下は切捨て）となっている（JRA 日本中央競馬会 HP）。売上伸長させている競艇とは9,000億円近い開きがある。
- 12 近年（2018～2019年頃）、競輪場内ではクオカードの謝礼を前提としたアンケートが頻繁に実施されていた（青森競輪、松戸競輪など：筆者回答済み）。こうした謝礼のある、施行者が実施するアンケート調査であれば有効回答はきわめて高くなる。筆者も回答済みであり、本アンケート結果についてのデータ確認をしたいが、現状では確認できていない（非公表と思われる）。

参考文献

【学会論文など】

- ・石川義憲 [2010]「日本の公営競技と地方自治体」『分野別自治制度及びその運用に関する説明資料』(16)、自治体国際化協会比較地方自治研究センター。
- ・小川一茂 [2006]「競輪事業の廃止にかかる損失の補填に関する一考察」『神戸学院法学』36 (2), p.297-327。
- ・柏原士郎、村上淳 [1981]「環境問題を発生させる施設の影響圏に関する研究 (2) —競艇場の場合—」『日本建築学会近畿支部研究報告集・計画系』(21), p.297-300。
- ・鎌田守博 (2004)「公営競技場のレーゾンデートル 社会学としての建築 レジャー施設としての競技場/建築計画/構造計画/競技施

設計画／電気計画／空調計画／給排水計画／公営競技場の防災拠点活用』『建築技術』200404, 651。

- ・ 近藤智哉 [2007]「生まれ変わるか、競艇事業～モーターボート競走法改正案～』『立法と調査』271。
- ・ 永江総宜 [2013]「新しい局面を迎えた地方公営企業の会計情報開示』『広報研究』(17), p.42-55。
- ・ 田村理 [2015]「公営競技廃止の舞台裏』『都市問題』106 (4), p.60-65。
- ・ 林淳司 [1962]「モーターボート競走制度の改善—公営競技の改正』『時の法令』(430) S37.7.13号, 雅粒社, p.13-17。
- ・ 福井弘教 [2016]「持続可能な公営競技のあり方に関する研究—競艇(ボートレース)を中心に」, 法政大学大学院修士論文。
- ・ 福井弘教 [2017a]「公営競技の形成と展望—競艇を中心に—』『公共政策志林』(5), p.149-163。
- ・ 福井弘教 [2017b]「都市空間における公営競技のあり方に関する研究—江戸川競艇場を中心事例として—』『法政大学大学院紀要』(79), p.227-235。
- ・ 福井弘教 [2018]「日本におけるギャンブル政策に関する考察—日韓ギャンブル政策の比較分析を通して—』『公共政策志林』(6), p.89-103。
- ・ 古川岳志 [2002]「戦後日本社会と公営ギャンブル」, 大阪大学。
- ・ 寄藤晶子 [2005]「愛知県常滑市における「ギャンブル空間」の形成』『人文地理』57 (2), p.5-26。

【政府、自治体刊行物、白書・統計・報告書・資料など】

- ・ 川口市 [2009~2016]「平成 21～28 年度主要な施策の成果に関する説明書」。
- ・ 公営競技問題研究会 (編) [1977]『公営競技の現状と問題点—公営ギャンブルのあり方について (その 1)』。
- ・ 日本小型自動車振興会 [2001]『オートレース 50 年史』。
- ・ 全国モーターボート競走施行者協議会編 [1970]『競艇沿革史』。
- ・ 総務省編 [2015]『地方財政白書 平成 27 年版 (平成 25 年度決算)』。
- ・ 船橋小型自動車競走施行者 (千葉県、船橋市) [2014]「船橋オートレース事業について」。
- ・ 船橋市 [2017]「平成 28 年度主要な施策の成果に関する説明書」。
- ・ 船橋市議会 [2016]「平成 28 年第 1 回定例会・臨時会会議録」。
- ・ 船橋市議会事務局 [1969]「市政概要昭和 43 年度版」。
- ・ (財) 余暇開発センター [1981]「公営競技に関する研究』『余暇開発センター調査研究報告書 55 競技』。
- ・ (公財) JKA [2020]「広報 AUTO RACE」150 号 [2020/9/25 号]。

【新聞、雑誌、広報紙、資料など】

- ・ Forbes.2, 11 (20) 日本版 [1993] ぎょうせい。
- ・ 横浜公営競技 6 場外発売所 [2015] ヨコハマエキサイティング 6。

参考ホームページ

【公営競技、関連団体ほか】

- ・ オートレース, <https://autorace.jp/> (閲覧:2021/5/15)。
- ・ 競輪, <http://keirin.jp/> (閲覧:2021/2/23)。
- ・ 地方競馬, <https://www.keiba.go.jp/> (閲覧:2021/5/11)。
- ・ JRA 日本中央競馬会, <https://www.jra.go.jp/> (閲覧:2021/6/23)。
- ・ 競艇(ボートレース), <https://www.boatracing.jp/> (閲覧:2021/5/16)。
- ・ 中国新聞, <https://www.chugoku.np.co.jp> (閲覧:2021/5/19)。
- ・ (一財) 日本モーターボート競走会, <http://mbkyosokai.jp/> (閲覧:2021/5/28)。
- ・ (一社) 全国モーターボート競走施行者協議会
<https://www.motorboatracings-association.jp/> (閲覧:2021/6/22)。
- ・ ビジネスジャーナル「船橋オートを殺した自治体の怠慢」
https://biz-journal.jp/2016/04/post_14627.html (閲覧:2021/3/23)。

【政府・自治体関連】

- ・ 千葉市「250 競輪」, <https://www.city.chiba.jp/keizainosei/kaizai/koeijigyo/250keirin.html> (閲覧:2021/6/23)。
- ・ 千葉競輪場, <https://www.chibakeirin.com> (閲覧:2021/11/10)。